

みずほマーケット・トピック(2015 年 11 月 20 日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料
3. 本日のトピックはお休みとさせていただきます。

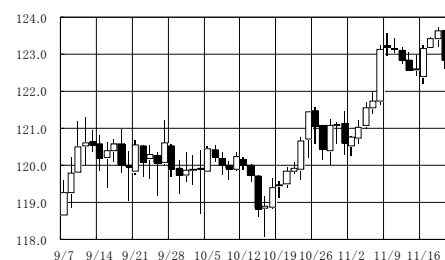
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は週半ばにかけて上昇し、後半に下落する展開。週初 16 日に 122 円台前半でオープンしたドル/円は、前週末に発生したパリ同時多発テロを受けてリスク回避ムードが高まる中、一時週安値となる 122.23 円をつけるも、有事のドル買いも相応に強く 123 円台前半に乗せる展開。17 日は、米利上げ観測が根強い状況下、米 10 月消費者物価指数(CPI)が市場予想を小幅に上回り、米金利が上昇する中でドル買い地合いは継続。ドル/円は 123 円台半ばまで上昇する場面も見られたが上値重く推移した。18 日、注目された FOMC 議事要旨において、多くの参加者が年内の利上げを支持していたことがわかると、ドル/円は一時週高値となる 123.77 円まで買い進められたが、市場が注目していた利上げペースに関する新たな手掛かりが無かったことから、その後は 123 円台前半に押し戻された。翌 19 日には、ドルの調整売りやロックハート・アトランタ連銀総裁が「利上げのペースは段階的なものになる」と示唆したことを背景に、ドル/円は 122 円台後半まで下落した。本日にかけても前日の流れを引継ぎ、ドル/円は 123 円付近で小動きとなっている。
- ・今週のユーロ相場は下に往って来いの展開。週初 16 日のシドニー時間に 1.07 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる 1.0778 をつけるも、週末に発生したパリ同時多発テロを受けてリスク回避ムードが広がる中、ユーロ売りが強まると一時 1.06 台後半まで下落。その後は 1.07 台半ばまで値を戻すも、米利上げ期待と ECB の追加緩和期待からユーロ/ドルの下値を模索する動きとなり再び 1.06 台後半まで下落した。17 日にかけてもユーロ売りが継続する中、プラート ECB 理事によりパリ同時多発テロによる欧州経済下振れ懸念が示されたことや米 10 月 CPI を受けたドル買いを背景に、ユーロ/ドルは 1.06 台前半まで続落した。18 日は、FOMC 議事要旨を受けたドル買いに、ユーロ/ドルは一時週安値となる 1.0617 まで下落するも、このレベルでは買い意欲も相応に見られ 1.07 台前半までじりじりと上昇。しかし、発表された ECB 理事会議事要旨において追加緩和の必要性が議論されたことが明らかになると、1.06 台後半に押し戻された。その後はドル売り優勢地合いの展開に、ユーロ/ドルは 1.07 台後半まで急伸。本日にかけてはやや値を戻すもののユーロ/ドルは、1.07 台前半で推移している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		11/13(Fri)	11/16(Mon)	11/17(Tue)	11/18(Wed)	11/19(Thu)	
ドル/円	東京9:00	122.59	122.31	123.27	123.44	123.50	
	High	122.99	123.28	123.49	123.77	123.65	
	Low	122.43	122.23	123.18	123.22	122.62	
	NY 17:00	122.62	123.17	123.45	123.64	122.86	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0809	1.0701	1.0688	1.0643	1.0671	
	High	1.0817	1.0758	1.0692	1.0693	1.0763	
	Low	1.0714	1.0674	1.0630	1.0617	1.0667	
	NY 17:00	1.0775	1.0686	1.0643	1.0659	1.0732	
ユーロ/円	東京9:00	132.51	130.88	131.74	131.36	131.80	
	High	132.59	132.21	131.80	131.79	132.26	
	Low	131.57	130.66	131.20	131.12	131.44	
	NY 17:00	132.00	131.61	131.36	131.79	131.88	
日経平均株価		19,596.91	19,393.69	19,630.63	19,649.18	19,859.81	
TOPIX		1,585.83	1,571.53	1,586.11	1,586.53	1,600.38	
NYダウ工業株30種平均		17,245.24	17,483.01	17,489.50	17,737.16	17,732.75	
NASDAQ		4,927.88	4,984.62	4,986.02	5,075.20	5,073.64	
日本10年債		0.31%	0.30%	0.30%	0.30%	0.30%	
米国10年債		2.27%	2.27%	2.27%	2.27%	2.25%	
原油価格(WTI)		40.74	41.74	40.67	40.75	40.54	
金(NY)		1,080.90	1,083.60	1,068.60	1,068.70	1,077.90	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・米国では、24日(火)に7～9月期GDP(2次速報)、25日(水)に10月コアPCEデフレータ、10月耐久財受注などが発表される。このうち、7～9月期GDP(2次速報)は、1次速報からの上方修正が市場で予想されている。10月29日に発表された1次速報は、前期比年率+1.5%と4～6月期(同+3.9%)から大幅に減速した。但し、その要因は年前半に積み上がっていた在庫投資の減少によるもので、好調な個人消費は引き続き健在であり、経済全体としては底堅さが確認された。その後発表された9月貿易統計を見ると、7～9月期の貿易赤字拡大ペースは経済分析局(BEA)の想定とほぼ等しくなっており、我々は7～9月期GDPの2次速報は1次速報から大きく変化しないと見ている。一方、市場では7～9月期GDPが2次速報で上方修正されると見る向きが多い(市場予想:前期比年率+2.0%)。この結果は、次回12月のFOMCでも議論され、利上げのサポート材料となろう。もっとも、好調な10月雇用統計によって、足許までの米経済の堅調さは既に確認されており、今後の焦点は11月雇用統計を始めとした月次指標でも景気回復ペースが維持されるかどうかであろう。このほか、21日(土)にダドリーNY連銀総裁、22日(日)にはウィリアムズ・サンフランシスコ連銀総裁の講演が予定されている。
- ・本邦では、27日(金)に10月全国消費者物価指数(CPI)、10月雇用関連指標(失業率、有効求人倍率)、10月実質消費支出が発表される。このうち10月CPIは前年比+0.3%(9月同+0.0%)、コアCPI(生鮮食品を除く)は同▲0.1%(9月同▲0.1%)と市場で予想されている。先行指標となる、日用品を対象とした東大日次物価指数やSRI一橋大学消費者購買価格指数は足許で物価上昇幅が拡大傾向にある。また、10月東京都区部CPIは同+0.1%、コアCPIは同▲0.2%と9月(それぞれ同▲0.1%、同▲0.2%)からコア指数は低下幅が横ばいとなっているが、総合はプラスに転じている。このように物価上昇の動きも見られるが、資源価格の下落は続いており、10月CPIは引き続き弱い動きが続く見込みである。日銀は10月30日の会合にて「2%」の物価目標達成時期を「2016年度半ばごろ」から「2016年度後半ごろ」に先送りしているほか、11月19日の会合でも「原油安の影響を除けば物価の基調は着実に改善」との姿勢を維持している。そのため、10月CPIの結果が当面の金融政策に与える影響は限定的だろう。
- ・欧州では、27日(金)に英7～9月期GDP(確報)が公表される。7～9月期は速報で前期比+0.5%と、4～6月期の同+0.7%から小幅に減速したが、確報についても市場では同+0.5%と速報から伸び率が横ばいになると予想されている。英国では米国とともに利上げが模索されているが、今回のGDP改定が利上げの議論に与える影響は限定的だろう。このほか、政治日程をみると、22日(日)にクーレECB理事の講演が行われるほか、23日(月)にユーロ圏財務相会合が開催される。

	本 邦	海 外
11月20日(金)	-----	-----
23日(月)	休 場(勤労感謝の日)	・米10月中古住宅販売
24日(火)	-----	・米7～9月期GDP(2次速報) ・米9月S&P/ケース・シラー住宅価格 ・米11月消費者信頼感指数 ・独7～9月期GDP(確報) ・独11月IFO景況感指数
25日(水)	・金融政策決定会合議事要旨 ・10月企業向けサービス価格 ・9月景気動向指数(確報)	・米10月個人所得・消費 ・米10月耐久財受注 ・米10月新築住宅販売 ・米11月ミシガン大学消費者マインド(確報)
26日(木)	-----	米国休場(感謝祭)
27日(金)	・10月家計調査 ・10月労働力調査 ・11月東京都区部 ・10月全国消費者物価	-----

【当面の主要行事日程(2015年11月～)】

欧州中銀理事会(12月3日、2016年1月21日、3月10日)
 ユーロ圏財務相会合、EU経済財務相理事会(ECOFIN)(12月7日、8日)
 米FOMC(12月15～16日、2016年1月26～27日、3月15～16日)
 日銀金融政策決定会合(12月17～18日、2016年1月28～29日、3月14～15日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔 (TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2015年11月)

月		火		水		木		金		週末	
2		3		4		5		6			
日本 自動車販売台数(10月) 米国 建設支出(9月) 米国 ISM製造業景気指数(10月)		日本 文化の日 米国 製造業受注(9月)		日本 マネタリーベース(10月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(10月) 米国 貿易収支(9月)		日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(10月6〜7日開催分) 米国 労働生産性(7〜9月期、速報) ドイツ 製造業受注(9月)		日本 景気動向指数(速報、9月) 米国 雇用統計(10月) 米国 消費者信用残高(9月) ドイツ 鉱工業生産(9月)			
9		10		11		12		13		15	
ユーロ圏 財務相会合 ドイツ 貿易収支(9月)		日本 国際収支(9月) 日本 貸出・預金動向(10月) 日本 景気ウォッチャー調査(10月) 日本 企業倒産件数(10月) 米国 卸売売上高(9月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ECOFIN)		日本 マネーストック(10月) 米国 ベテランズデー 米国 財政収支(10月)		日本 企業物価(10月) 日本 機械受注(9月) ユーロ圏 鉱工業生産(9月)		日本 鉱工業生産(確報、9月) 日本 第三次産業活動指数(9月) 米国 小売売上高(10月) 米国 企業在庫(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、11月) 米国 生産者物価(10月) 米国 貿易収支(9月) ユーロ圏 GDP(速報、7〜9月期) ドイツ GDP(速報、7〜9月期)		G20(アンタルヤ、〜16日)	
16		17		18		19		20			
日本 GDP(1次速報、7〜9月期) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(11月) ユーロ圏 消費者物価(確報、10月)		米国 消費者物価(10月) 米国 鉱工業生産(10月) 米国 TICレポート(対内外証券投資、9月) ドイツ ZEW景況指数(11月)		日本 日銀金融政策決定会合(〜19日) 米国 住宅着工(10月) 米国 FOMC議事要旨(10月27〜28日開催分)		日本 貿易収支(10月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(11月) 米国 景気先行指数(10月) ユーロ圏 国際収支(9月)		日本 金融経済月報(11月)			
23		24		25		26		27			
日本 勤労感謝の日 米国 中古住宅販売(10月)		米国 GDP(2次速報、7〜9月期) 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(9月) 米国 消費者信頼感指数(11月) ドイツ GDP(速報、7〜9月期) ドイツ IFO企業景況感指数(11月)		日本 金融政策決定会合議事要旨(10月30日開催分) 日本 企業向けサービス価格(10月) 日本 景気動向指数(確報、9月) 米国 個人所得・消費(10月) 米国 耐久財受注(10月) 米国 新築住宅販売(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、11月)		米国 感謝祭		日本 家計調査(10月) 日本 労働力調査(10月) 日本 全国消費者物価(10月) 日本 東京都消費者物価(11月)			
30											
日本 鉱工業生産(速報、10月) 日本 商業販売統計(10月) 日本 新設住宅着工(10月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(11月)											

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

経済指標カレンダー(2015年12月)

月	火	水	木	金	週末
	1 日本 法人企業統計(7～9月期) 日本 自動車販売台数(11月) 米国 建設支出(10月) 米国 ISM製造業景気指数(11月) ユーロ圏 失業率(10月)	2 日本 マネタリーベース(11月) 米国 ADP雇用統計(11月) 米国 労働生産性(確報、7～9月期) 米国 ペーシェブック ユーロ圏 消費者物価(速報、10月)	3 米国 製造業新規受注(10月) 米国 ISM非製造業景気指数(11月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	4 米国 米雇用統計(11月) 米国 貿易収支(10月) ユーロ圏 GDP(速報、7～9月期) ドイツ 製造業受注(10月)	
7 日本 景気動向指数(速報、10月) 米国 消費者信用残高(10月) ユーロ圏 財務相会合(ブリュッセル) ドイツ 鉱工業生産(10月)	8 日本 GDP(7～9月期、確報) 日本 国際収支(10月) 日本 貸出・預金動向(11月) 日本 景気ウォッチャー調査(11月) 日本 企業倒産件数(11月) ユーロ圏 EU経済・財務相理事会(ブリュッセル)	9 日本 機械受注(10月) 日本 マネーストック(11月) 米国 卸売売上高(10月) ドイツ 貿易収支(10月)	10 日本 法人企業景気予測調査(10～12月期) 日本 企業物価(11月) 米国 財政収支(11月)	11 米国 小売売上高(11月) 米国 生産者物価(11月) 米国 企業在庫(10月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、12月)	
14 日本 短観(12月調査) 日本 鉱工業生産(確報、10月) 日本 第三次産業活動指数 ユーロ圏 鉱工業生産(10月)	15 米国 FOMC(～16日) 米国 消費者物価(11月) 米国 TICレポート(対内対外証券投資、10月) ニューヨーク連銀製造業景気指数(12月) ドイツ ZEW景況指数(12月)	16 米国 住宅着工(11月) 米国 鉱工業生産(11月) ユーロ圏 貿易収支(10月) ユーロ圏 消費者物価(確報、11月)	17 日本 日銀金融政策決定会合(～18日) 日本 貿易収支(11月) 米国 経常収支(7～9月期) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(12月) 米国 景気先行指数(11月) ブリュッセル EU首脳会議(～18日) ドイツ Ifo企業景況感指数(12月)	18 ユーロ圏 国際収支(10月)	20 ユーロ圏 スペイン総選挙
21 日本 金融経済月報(12月)	22 米国 GDP(3次速報、7～9月期) 米国 中古住宅販売(11月)	23 日本 天皇誕生日 米国 耐久財受注(11月) 米国 新築住宅販売(11月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、12月) 米国 個人所得・消費(11月)	24 日本 日銀金融政策決定会合議事要旨(11月18～19日開催分)	25 日本 労働力調査(11月) 日本 家計調査(11月) 日本 東京都消費者物価(12月) 日本 全国消費者物価(11月) 日本 企業向けサービス価格(11月) 日本 景気動向指数(確報、10月) 日本 新設住宅着工(11月)	
28 日本 鉱工業生産(速報、11月) 日本 商業販売統計(11月)	29 米国 S&P/ケース・シラー住宅価格(10月) 米国 消費者信頼感指数(12月)	30	31 米国 シカゴ購買部協会景気指数(12月)		

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2015年11月17日	本邦7～9月期GDPを受けて～最近のULC動向～
2015年11月16日	仏同時多発テロを受けて～政治統合か、瓦解か～
2015年11月13日	週末版(ドル調達コストの急騰について～「割に合わない」ムードが強まる対外証券投資～)
2015年11月12日	12月ECB緩和を阻むもの～戻ってしまったインフレ期待～
2015年11月11日	米輸入物価下落が示す「不況の輸入」
2015年11月10日	本邦9月国際収支統計と円相場の需給について
2015年11月9日	米10月雇用統計を受けて～問題は「何回できるか」～
2015年11月6日	週末版(ECBの「次の一手」を考える～預金ファシリティ金利のマイナス幅はどこまでいくのか～)
2015年11月4日	3度目の正直に挑む、ドル/円相場の年間値幅
2015年11月2日	日銀金融政策決定会合を終えて～幻滅リスク回避も・・・～
2015年10月30日	週末版
2015年10月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年9月分)
2015年10月28日	FOMC声明文のプレビュー～注目すべき3点～
2015年10月27日	振り出しに戻った投機筋の円売り～2つの理由～
2015年10月26日	ECB緩和と予告は日銀を追い詰めたと言えるのか？
2015年10月23日	週末版(ECB理事会を終えて～止まりそうにない金融政策の通貨政策化～)
2015年10月21日	米為替政策報告書について～我慢の限界は近い？～
2015年10月20日	日銀金融政策決定会合プレビュー(10月30日開催分)
2015年10月19日	ECB理事会プレビュー(10月22日開催分)
2015年10月16日	週末版(ユーロ相場の乱高下を受けて～迫るHICPのマイナス常態化と追加緩和～)
2015年10月15日	米利上げを再検討すべき時期に
2015年10月14日	ドイツ経済に見られ始めた失速の兆候
2015年10月13日	正当性を増すブレイナードFRB理事のスタンス
2015年10月9日	週末版(ECB理事会議事要旨(9月2～3日開催分)～崩れるインフレ期待？～)
2015年10月8日	本邦8月国際収支統計と円相場の需給について
2015年10月7日	IMF秋季世界経済見通し～利上げ不安は高まるばかり～
2015年10月6日	「利上げの好機」を逸したか～待ちくたびれる雇用回復～
2015年10月5日	米9月雇用統計～皮肉な円安シナリオの延命も？～
2015年10月2日	週末版(外貨準備構成通貨の内訳(15年6月末時点)～中国報告開始の影響を考える～)
2015年10月1日	日銀短観9月調査～追加緩和の行方は？～
2015年9月29日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年8月分)
2015年9月28日	物価測定に照らしたドル/円相場の現状と展望
2015年9月25日	週末版(名目GDP600兆円への道～新「3本の矢」が目指すところ～)
2015年9月24日	欧州難民危機は統合深化の試金石に
2015年9月18日	週末版(FOMCを終えて(9月16～17日開催分)～糊代論への未練がましい執着～)
2015年9月17日	日銀4～6月期資金循環統計について
2015年9月16日	判断を迫られる通貨・金融政策～株価が実質賃金か～
2015年9月15日	投機筋の円ショート縮小をどう読むか？～その②～
2015年9月14日	ポスト債務危機の様相を呈してきた欧州難民危機
2015年9月11日	週末版(ドル/円相場の水準感～上値と下値の目途の考え方～)
2015年9月10日	ユーロ圏経済の現状と展望及びユーロ相場について
2015年9月8日	本邦7月国際収支統計と円相場の需給について
2015年9月7日	アンカラG20を終えて～分があるのはどちらの主張か～
2015年9月4日	週末版(ECB理事会を終えて～FOMCに先手を打ったECB～)
2015年9月3日	ECB理事会プレビュー～APP延長示唆か？～
2015年9月2日	国際金融のトリレンマから読む中国の外貨準備減少
2015年8月28日	週末版
2015年8月27日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」②
2015年8月26日	混乱を受けたドル/円相場の見直し改定について【暫定】
2015年8月25日	円相場の観点で見つめ直す日経平均株価の水準感
2015年8月24日	世界同時株安で台頭する「リスク回避のユーロ買い」
2015年8月21日	週末版(FOMC議事要旨(7月28～29日開催分)を受けて～「断固たる覚悟」は見えず～)
2015年8月19日	本邦7月貿易統計を受けて
2015年8月17日	日米欧4～6月期GDPを受けて
2015年8月14日	週末版(ECB理事会議事要旨(7月15～16日開催分)について～no reason for complacency～)
2015年8月13日	人民元切り下げとそれに付随する論点～その②～
2015年8月12日	人民元切り下げとそれに付随する論点
2015年8月11日	2015年上半年期における円相場の基礎的需給環境
2015年8月10日	2016年日銀金融政策決定会合日程を受けて
2015年8月7日	週末版
2015年7月31日	週末版
2015年7月30日	FOMCを終えて～吹けば飛ぶような利上げ期待～
2015年7月29日	内閣支持率低下とドル/円相場
2015年7月28日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2015年6月分)
2015年7月27日	第三次金融支援でギリシャは幸せになれるのか
2015年7月24日	週末版(NZドルの現状と展望について～購買力平価(PPP)や実質実効為替相場(REER)からの評価～)
2015年7月23日	ユーロキャリー取引の妥当性考える
2015年7月17日	週末版(ECB理事会を終えて～見直されるLLR機能～)
2015年7月16日	日銀金融政策決定会合を受けて
2015年7月15日	GPIF運用状況(15年3月末)から試算する円売り余力
2015年7月14日	ギリシャ第三次金融支援合意について
2015年7月13日	ユーロ圏、72時間以内の緊縮可決を要求
2015年7月10日	週末版(本日に本当の最後の会合～不安な「ギリシャ後の展開」～)
2015年7月9日	不運が続く円安シナリオ
2015年7月6日	ギリシャ国民投票を受けて～勝負の2週間～
2015年7月3日	週末版(拡大資産購入プログラム(APP)の現状と展望について～ギリシャ情勢を受けて問われる運営方針～)
2015年7月2日	外貨準備構成通貨の内訳(15年3月末時点)
2015年7月1日	ギリシャ返済遅延と離脱に係る損失試算について
2015年6月29日	一連のギリシャ動向について～デフォルトはメインシナリオへ～
2015年6月26日	週末版(2015年上半年期を終えて～素直な政策金利相場だった上半期～)
2015年6月25日	約18年半ぶりの株高を受けて～実感はあるか？～
2015年6月24日	ユーロ圏、ギリシャ以外の年内の火種は？
2015年6月23日	何故ユーロ相場は底堅いか？
2015年6月22日	ギリシャ向けエクスポージャーの現状把握
2015年6月19日	週末版(ユーロ圏財務相会合を終えて～舞台は首脳級へ引き継ぎ～)
2015年6月18日	FOMC及びSEPを受けて(6月16～17日開催分)
2015年6月16日	米4月対内・対外証券投資(TIC)レポートについて
2015年6月15日	当面のギリシャ情勢～考え得るシナリオや離脱後の相場～
2015年6月12日	週末版(黒田総裁発言の解釈～実質実効為替相場を考える～)
2015年6月10日	ユーロ圏1～3月期GDP(2次推計値)について
2015年6月9日	基礎的需給環境の確認～4月国際収支統計を受けて～
2015年6月8日	本邦にFRBの早期利上げは可能になったのか？